

詠む広場

毎日歌壇

露草や物干し竿の竹古び

広島市 村越 緑

梅落ちて雨音つづく梅雨最中

川西市 多川 義一

青葉山背に映ゆる美術館

奈良 高尾山 昭

梔子の白き色こそ無垢の色

姫路市 多方 一博

鳥声の艶のありけり青葉山

出雲市 石原 清司

見えてくる我らの下界初登山

八街市 山本 淑夫

梅雨明けや青一色の空天井

高知 渡辺 哲也

屋根替えの工事挨拶サンクス

京都市 根来 滋

雲の峰父の位牌に峰の文字

北杜市 小松 俊隆

紫陽花やこぼれるほどの雨を抱き

東大阪市 山尾サトミ

葉桜や石のテーブル石の椅子

和歌山市 中筋のぶ子

駅前ケケナ音の音色梅雨晴れ間

川越市 大野有之介

奥の院までの坂道草いきれ

和歌山 くらりみ

水無月や地下鉄出口雨匂ふ

前橋市 西村 晃

働かぬ齢となりて更衣

広島市 谷口 一好

連に代田の鏡曇りけり

小林市 黒木 暢

若ぶつて素足に靴を履きにけり

土浦市 今泉 準一

風薫る稽古の合間面を脱ぎ

木津川市 大村 雅信

夏帽子板に付きけり独り旅

横濱市 瀬古 修治

飛べぬひな一羽残して燕の巣

磐田市 白井 善夫

(LINE)を打てて「おれ」の「おれ」

系図」の取り合わせは、太宰が芸者との結

婚によって生家の津島家から分家除籍され

たことをいややんとして想起させます。いく

つも醜聞を起した人だったので、津島家

では彼について語ることがタブーになっ

ていたといひます。

掲句の「見知らぬ名前」の持ち主も、一

族の黒い羊だったのでしょか。家系図に

載っているのに、だれも話題に挙げたり、

思い出を語ったりすることは無い。はた目

には恵まれた環境に生まれたのだらうその

人に、一体何があつたのかと思わずにはい

られません。(えんどう・みかハ俳人)

加藤 治郎 選

水原 紫苑 選

伊藤 一彦 選

米川千嘉子 選

力士らはSUMOと呼ばれかりそのバリの土俵に
轟く「YOISHO」フランス 小仲 翠太七月をはだかにすれば金色の骨だけ残る聖堂
だった 明石市 石村 まい寂しさを冷凍保存したいから両手でガッツポ
ーズを作る 宮崎 門田 藍子老人はサラリーマンか今日もまた昼の蕎麦屋
に駆け来て並ぶ 静岡市 柴田 和彦△評▽6月に開催された大相撲、パリ公演で
ある。力士がパリに行き短歌が日本に来る△評▽7月は聖堂の金色の骨の美しさ、な
らばもうその先はないかのようだ。8月は△評▽普通なら早く捨てたい寂しさを「冷
凍保存」したくなるのはなぜ。意表をつく△評▽上二句がじつに端的に現代を感じさ
せる。もはやこの場面に悲哀を感じるべき飛んできたビニール袋がまた飛んでなんて見
事な黄昏だろう 津市 川原田明子火葬土葬水葬鳥葬宇宙葬 みな皆へず消滅
したい 甲府市 村田 一広ひとりではない証明がほしかった夜に溺れな
がら灯すスマホ 四万十市 佐竹 紫円△評▽「鎖骨の窪み」に「卵黄」のように
！ ちよっと驚くが、不思議な味がある。△評▽ビニール袋のスケッチが巧みであ
る。結句で色彩が広がる。豊かな情景だ。歴史には一瞬で消滅した人々がいる。
耳栓をしても世界を締め出せず世界の在り処△評▽スマホを利用する気持ち。だが、そ
の「証明」の危うさを作者は知っている。△評▽「鎖骨の窪み」に「卵黄」のように
！ ちよっと驚くが、不思議な味がある。耐えきれずすすすすすすと海へ歩いてい
たら、朝が来ていた 富古市 塩見 伴ナポリタンのひとと呼ばれて顔あげのお皿に
載っているのはひかり 横濱市 大原 香花パイ生地は恋人の靴下のように畳まれてはに
かんだでしょう 山形市 新道百合子△評▽「鎖骨の窪み」に「卵黄」のように
！ ちよっと驚くが、不思議な味がある。

・ボートで 豊中市 ね お

雲天を映してやわらかい運河 嬉しいんだよ
生きてくれて 横濱市 街川 二級不眠にも慣れて牛乳温める三時の暗き
厨に 吉野川市 喜島 成幸△評▽「鎖骨の窪み」に「卵黄」のように
！ ちよっと驚くが、不思議な味がある。

照った君と 名古屋市 森本 有

粉々の月光よ我が背泳の進めば水の縋れつか
げりつ 東京 吉岡 耕大うぐいすは鳴くけど燕は見かけない薔薇は
咲くけどさみしいこの街 川崎市 栗林 尚美△評▽「鎖骨の窪み」に「卵黄」のように
！ ちよっと驚くが、不思議な味がある。木の匙で掬うスープを作るから鈴蘭鳴らす遠
音の暮らし 川崎市 新井 将月のかそけき光の指に永遠の指輪がはまるご
とさうたね 横濱市 安西 大樹身の丈に合わない靴を履く君の踵を擦る音
のおかしさ 大阪市 濱口 蒼生△評▽「鎖骨の窪み」に「卵黄」のように
！ ちよっと驚くが、不思議な味がある。治らないあなたのところ抱いているまたごみ
の日を通り過ぎて 平塚市 芝澤 樹夕暮れに観覧車ひとつ回りを死者のまぶた
の裏のあかるさ さいたま市 住谷 正浩わが町の郵便局ではがき買っ長生きしてねっ
れしい一言 長野市 大沢喜美子△評▽「鎖骨の窪み」に「卵黄」のように
！ ちよっと驚くが、不思議な味がある。ひとすじの月のひかりに刺されたい君の留守
電消去した夜 春日井市 月夜の雨夕暮れに観覧車ひとつ回りを死者のまぶた
の裏のあかるさ さいたま市 住谷 正浩わが町の郵便局ではがき買っ長生きしてねっ
れしい一言 長野市 大沢喜美子△評▽「鎖骨の窪み」に「卵黄」のように
！ ちよっと驚くが、不思議な味がある。

電消去した夜 春日井市 月夜の雨

夕暮れに観覧車ひとつ回りを死者のまぶた
の裏のあかるさ さいたま市 住谷 正浩わが町の郵便局ではがき買っ長生きしてねっ
れしい一言 長野市 大沢喜美子△評▽「鎖骨の窪み」に「卵黄」のように
！ ちよっと驚くが、不思議な味がある。割れた皿 君はむくんだ足を揉み 今は黙っ
ていてくれないか 東京 安 高良夕暮れに観覧車ひとつ回りを死者のまぶた
の裏のあかるさ さいたま市 住谷 正浩わが町の郵便局ではがき買っ長生きしてねっ
れしい一言 長野市 大沢喜美子△評▽「鎖骨の窪み」に「卵黄」のように
！ ちよっと驚くが、不思議な味がある。

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生(希望選者名)係へ。

戦後81年「戦争・平和」の作品募集

81回目の「終戦の日」に合わせ、戦争や平和について詠んだ短歌と俳句を募集します。通常の投稿(ネットとはがき)で受け付けます。締め切りは7月31日(必着)。入選作は8月10日の本欄で掲載します。



こちらから
投稿できます

気になる3句

薔薇の香を揺らして都営
猫の墓今年も灯る初詣
梅を干す灯台守りの官舎